

名古屋港が再生され、真に前向きな都市再開発や経済活動の舞台となって
市民や訪問者が集う『都市の広場』となるよう祈念します。

～ 名古屋港ガーデン埠頭を考える学生提案競技 公開講評会を終えて



かつてのイタリア村の二の轍を踏まないよう、より多くの市民とともに名古屋港ガーデン埠頭の将来を考えるための何かいい方法はないだろうかと、私が相談を受けたのは昨年のことでした。建築や都市の専門家でない市民が、いきなり埠頭の将来像を思い描くのはなかなか容易なことではありません。そこで私はこうお答えしました。まずどんな将来像が描けるのか、建築や都市を専門とする大学の研究室がいくつかの試案を作るのはどうでしょう。それを見れば市民のみなさんのイメージも湧くと思います。それから多くの市民、行政、専門家が一緒になって幅広い議論を始めましょう。

ただ、ひとり私の研究室だけで試案を作るのでは、どうしても提案の幅が限られます。そこで複数の大学に依頼して、出来るだけ多様な案を集めましょうということになりました。幸い地元名古屋圏と関東圏のいくつかの大学で教鞭を執る、日本の第一線の建築家たちが協力を申し出てくれましたが、結局その予算は通らず、計画はご破算になってしまったのです。

しかし、私は依然として名古屋港が真に広く市民に愛される場所となるために、どうしてもそのたたき台となる提案が必要と考え、今回全国の大学の研究室にボランティアとしての提案を募ったところ、全25案の多様な提案が寄せられました。名古屋や東京だけでなく遠く熊本からもアイディアをお寄せいただいたことに深く感謝申し上げます。当日はそのうち23のチームと指導に当たられた先生方の参加を得て、大変活発な提案発表会となりました。

多くの人々の善意と熱意に支えられて、名古屋港の将来像に関する幅広い議論が出来たこと、また多くの協力者を得て広く市民に見ていただける展覧会が実現されたこと、ともに言葉では尽くせないほどの成果だと思います。今後は、地元名古屋の1人でも多くの方々がこれをご覧になり、皆さんの宝である名古屋港が見事に再生され、真に前向きな都市再開発や経済活動の舞台となって、多くの市民や県外からの訪問者が集う、開かれた「都市の広場」となるよう心から祈念しています。

実行委員長 建築家・早稲田大学教授 古谷誠章

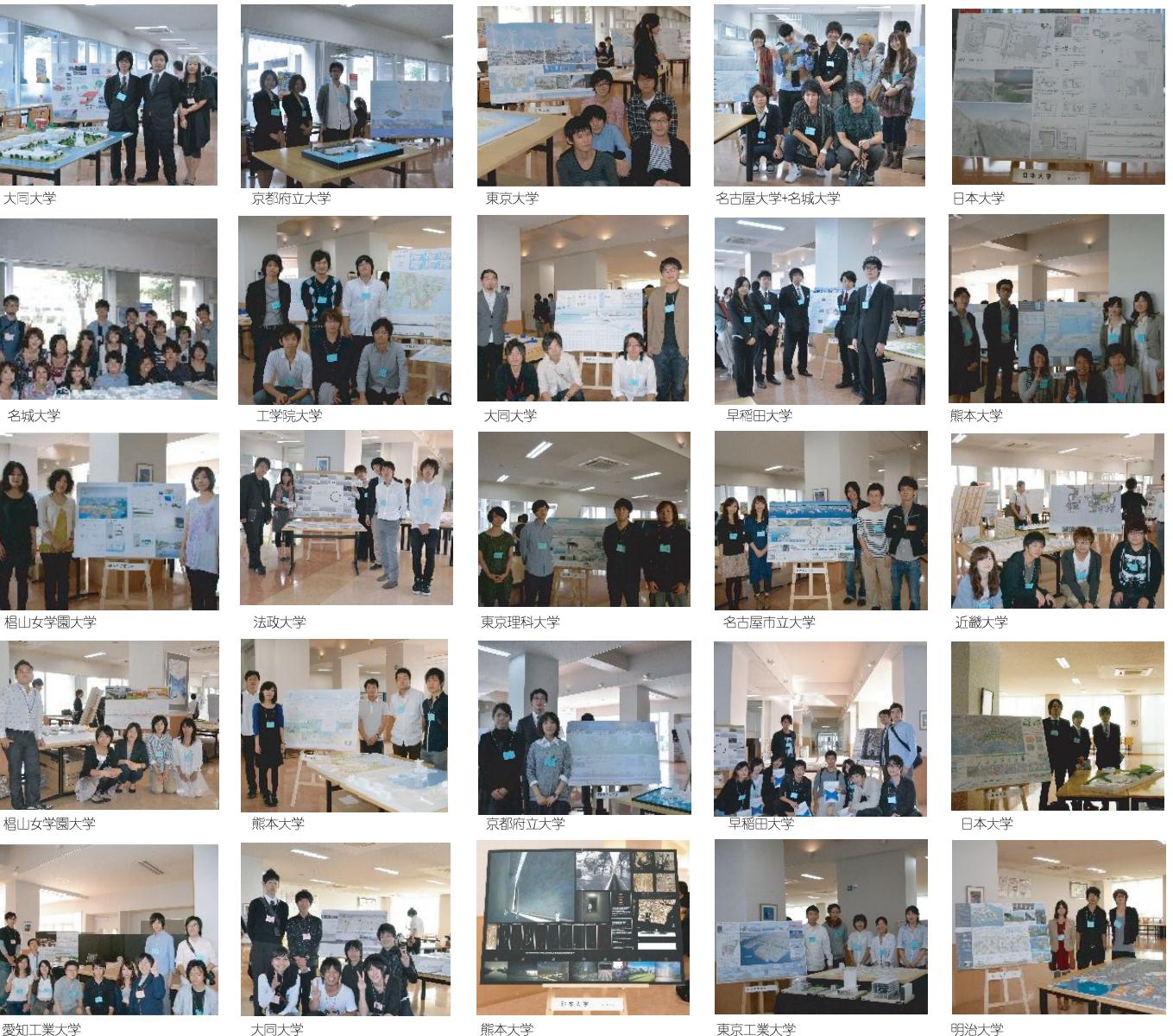


□実行委員

※あいうえお順



□全国の大学から25チームが参加しました。



詳しくはホームページをご覧ください。<http://www.nagoya-gp.com>